

イブニング サロンNEWS

イブニングサロン公式サイト

http://www.innovationpartners.jp/nonagase/
/evening.htm

発行

イブニングサロンNEWS」を発行する会
事務局・東方通信社
TEL: 03-3518-8844

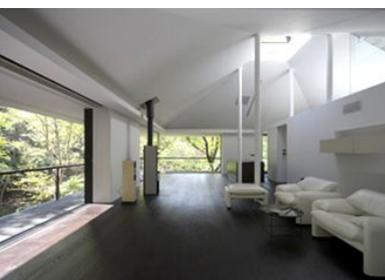
ユニークなアイデアで躍進する 住宅・建設ビジネスの最前線!!

10月9日(金)、第24回目の「新都心イブニングサロン」が開催される。今回のテーマは「住宅・建設」。「住まい」は人間の根本的な拠点のため、夢や思いが詰まっている。こうしたい思いをどのように実現させるか、それこそが住宅ビジネス成功の秘密といえる。今回紹介する企業や研究者たちのユニークで熱いアイデアを知ってほしい。

開拓者精神とスマートさを併せ持つ 未来型の建築ベンチャー企業

(株)ウィークエンドホームズ社

家には住む人の思いが詰まっている。「オシャレな店舗をつくりたい」「周囲の街並みと調和がとれた家をつくりたい」そんな思いを見事に設計してくれるのが、建築ベンチャーのウィークエンドホームズ社だ。住む人の思いを形にする同社の熱意はどこにも引けをとらない。設計にあたっては、顧客と綿密に打ち合わせをし、ライフスタイルに適した住宅づくりを提案する。そして、良質なデザインを施し、顧客のイメージする住宅を形にしていく。このキメ細かい対応にほとんどの顧客は「こういう家に住みたかった」と感動するという。



洗練されたデザインが魅力の同社の住宅



未来型の建築スタイルを提唱する森本剛社長

T151-0053
東京都渋谷区代々木2-27-12
TEL03-5602-3390
http://www.weekend-homes.com

録している2200強の建築事務所・建築士たちが設計プランを提案するというもの。顧客は、集まってくる多彩なプランの中から最適のものを選ぶことができる。まさに次世代型のプラン提案といえる。

なお、これまで同社が手掛けた住宅は、さまざまなメディアで取り上げられてきた。なかでもテレビ東京の『完成!ドリームハウス』には全面的に取材協力しており、同社が設計したさまざまな住宅が番組で紹介された。そのどれもが洗練されながらも機能的でまさにオンリーワン住宅だった。

これに加え、金融面にも力を入れており、設計完成保証、設計賠償責任、関係会社による瑕疵保証、工事完成保証といった保証体制を整備している。

おかげで同社の快進撃は続いており、00年の設立からわずか5年間で、取扱案件数556件、取扱高200億円をサイト上で受注したという。開拓者精神と洗練されたスマートさを併せ持ち、ますますの活躍ぶりが期待されている。

コンクリートの専門家が警鐘を鳴らす 老朽化橋梁の補修対策

埼玉大学 睦好宏史教授

昭和30年から50年頃までの高度成長期、日本中で建設ラッシュが起こり、道路・橋・ビルが急速に建設された。しかし、建設からすでに半世紀近く経ち、老朽化が著しくなってきた。この問題に警鐘を鳴らしているのが、埼玉大学の睦好宏史教授（理工学研究科環境科学・社会基盤部門）だ。

睦好教授は、建設材料工学、橋梁工学などを専門とし「鉄筋コンクリート構造物の耐震に関する研究」や「橋梁の維持・管理に関する研究」などを行っている。また、民間企業との協働事業や社会貢献活動にも積極的に参画し、埼玉県橋梁維持管理更新システム検討委員会では委員長を務めている。

睦好教授は委員会のなかで「埼玉県が管理する橋梁は2560橋あり、その約4割が高度成長期に建設されたもの。20年後には約7割以上が建設後50年以上になり、そのほとんどが老朽化し、大規模な修繕や架け替えが必要になる。現在、どの自治体も財政状況は厳しいが、その条件でも老朽化した橋梁の対策をいかに進めるかが緊急の課題になっている」と話す。



老朽化した橋梁の修繕などを訴求する睦好教授

睦好教授は6月、この課題の対策をまとめた『埼玉県橋梁寿命化修繕計画』を上田清司埼玉県知事に提出した。この計画は、限られた財政状況の中で今後50年間、橋梁の安全性を確保しつつ、計画的・効率的・経済的に、維持管理や更新をどのように行っていくかを示しているもので、上田知事は「この計画にしたがって、橋梁の維持管理などを実施していく」と語ったという。

老朽化が原因で崩落事故などが起こっては悲惨になっってしまう。睦好教授の研究活動は、まさに生命線を守る研究といえる。

〒338-8570
埼玉県さいたま市桜区下大久保255

地盤改良と振動低減を 実現する建設製品を開発

メトリ―技術研究所(株)

メトリ―技術研究所が開発した建設関連製品「D・BOXシリーズ」に注目が集まっている。なんと地盤に敷設するだけで、地盤補強に加え、振動の低減効果も得られるというのだ。工事や災害対策に大いに役立ちそうな製品である。

この「D・BOX」は、名古屋工業大学の松岡元名誉教授が考案した「土の区画拘束原理」を応用し製品化したもので、透水性のある矩形の袋に定量の碎石を投入しランマー等で締め固めたもの。固める際に袋に張力が生じており、その結果、袋内部の碎石間に大きな摩擦が発生している。この摩擦が様々な効果を生み出すというのだ。

そのひとつが振動対策効果で、たとえば道路下に敷設すれば、交通振動を大幅に低減する。また、住宅や病院など建物の下に敷設すれば、地震など外部からの振動も低減してくれる。ほかにも、工事現場の重機による振動なども低減する。

次いで期待できるのが地盤改良効果。水位が高く他の工法が不可能な地盤、または腐葉土が厚く堆積している地盤、そして

大型重機が入れない狭い道路といった地盤を安定したものに改良する。これなら安全を確保しながら確実に工事ができる。

またこの「D・BOX」は、すべて再生可能な材料のみを使用しており、土質や水質に影響を与えず、発癌性物質も発生しないという。環境対策もパツグンの建設製品といえる。

〒347-0056
埼玉県加須市土手2-14-37
TEL050-3598-4988
<http://www.metry.jp/>



工事現場の地盤改良に利用されている「D・BOX」



吊上げ式直方体バッグの「D・BOX」

工期とコストを短縮できる ユニット型マンション

(株)アズ企画設計

不動産販売などを手がけるアズ企画設計が展開している「アズキュービック」は、かなりユニークな賃貸マンション。これは長さ約12メートル、幅約2・5メートルのコンテナサイズのユニットハウスで、外装から内装まですべてを工場ですべて仕上げる。だから、あとはトレーラーで運び現場で組み立てるだけ。

通常、重量鉄骨で3階建ての共同住宅を建築する場合、約6ヶ月から7ヶ月の工期を要する。その理由は、基礎から最終の仕上げまで現地で工事を進めるため、天候に左右されてしまうためである。しかし「アズキュービック」の場合、現場の作業と並行して工場生産を行うため、天候の影響が半減し、結果、工期やコストも半減するという。

もともとこうした工法はビジネスホテルなどに使われてきたが、一般の住宅用に開発したのは同社が初めて。低コストが受けて、社員寮として検討する企業もあるという。ところで、同社では3ヶ月ごとに埼玉のビジネスニュースや地元の人気店を紹介する小冊子『埼玉通信』を発行している。「それぞれの企業が元気になるれば埼玉経済も元気になる」という信念から出版しているそうだ。地域に根ざした活動が本業にも好影響を与えているようだ。

〒332-0802
埼玉県川口市戸塚東
2-1-26
TEL048-298-1700



コンテナマンションの「アズキュービック」



「アズキュービック」を活用して完成したマンション

友好サロン情報

●第2回ふくしまイブニングサロン

日時 10月22日(木)
場所 福島県福島市「福島ビューホテル」
主催 財団法人地域総合整備財団(ふるさと財団)
共催 福島県、ふくしまイブニングサロン
内容 1)基調講演
2)パネル討論会
3)懇親会
事務局 ふくしまイブニングサロン事務局
<http://www.evening-salon.com/sw/mailform>



盛況だった「ふくしまイブニングサロン」

●第4回みちのく奥州イブニングサロン

日時 11月25日(水)
場所 岩手県奥州市 メイプル東館地下 多目的ホール「マッセ」
内容 テーマ「物流」
出演者 山形大学大学院野長瀬教授、白金運輸(株)
事務局 みちのく奥州イブニングサロン事務局(及川)
0111yuji@gmail.com

「野長瀬教授」「モノづくり通信簿」に「工房やまだ」が登場

イブニングサロンの世話人をつとめる野長瀬裕二・山形大学教授が企業診断を行う「モノづくり通信簿」が月刊「コロンプス」で好評連載中。これは、モノづくりで定評のある企業の工場や現場取材し、「成長意欲」「独自性」「営業努力」「モノづくり」「研究開発」「事業企画」「経営資源」「雇用創出」を採点。その上で、その企業の強み、逆境時の対処法なども聞き、総合的に企業を評価していくコーナー。この手法が読者に



「モノづくり」通信簿をつける野長瀬教授

好評で、「自社の改善点が見えた」「新しいビジネスヒントをつかんだ」といった声が編集部に届いている。

最新の月刊「コロンプス」10月号では、工房やまだ（山形県米沢市）の山田秀一社長が登場した。同社はBGA (Ball Grid Array) 等のICチップが実装されたプリント基板の改造・リワーク・試作を手がけるマイスター企業。大手企業がサジを投げるような仕事を短納期で仕上げる技術力を持っている。

そのため、工房やまだには連日のように、大量生産のなかで生じた不良品や、大手企業でも社内では修理できない基板などが持ち込まれる。不良の原因は千差万別だが「プリント基板の不良は実は単純な理由であることが多い」と山田秀一社長。

たとえば「実装パーツを逆さに載せてしまうだけでも、駆動しなくなってしまうし、半田が腐食してもダメになってしまふ」と。とはいえ、それを見極めるのは実に困難。ひとつひとつの回路や配線、パーツを念入りにチェックしながら、どこに問題があるのかを洗い出していくかなければならないという。

ところで、同社の最大のウリは、ノーマスクでリワークを行うことができること。たとえば、通常、BGAタイプのICチップを交換作業する場合、プリント基板から取り外したBGAを手直しするのにマスクを用いる必要がある。余計な箇所には半田がつかないようにするための。

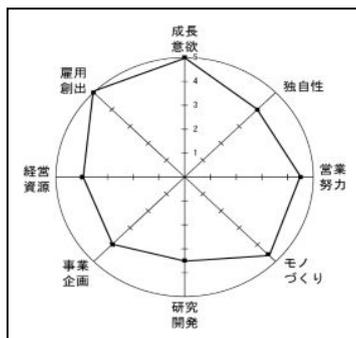


山田秀一社長

が、同社の場合、特殊なノウハウを持つているのでノーマスク処理ができるという。通常1週間ほどかかるマスクの手配を省くことで「基板を持ってきてもらえば、当日仕上げもできる」と山田社長は胸を張る。このマスク製作のコストと手番をカットできるとあって、仕事依頼は増えつつあるという。

(株)工房やまだ
〒962-0031
山形県米沢市大町3-1-11
TEL02388-22-0771
<http://www.c-omn.ne.jp/>

工房やまだの「産業栽培度」



サロン公式サイトで「ニュース」公開中

第10回新都心イブニングサロンで創刊された「イブニングサロンニュース」



は、新都心イブニングサロン公式サイトおよび発行事務局の東方通信社サイトにてアップされています。第14号までアップしていますので、ご覧ください。

今後も引き続き、さまざまな角度からニュースを発信していきたいと思ひます。新商品や新技術の開発、ご意見・ご要望までふってお寄せください。

★イブニングサロン公式サイト
<http://www.innovationpartners.jp/nonagase/evening.htm>

★東方通信社サイト
<http://www.tohopress.com>
問合せ：TEL03-3518-8844

e-mail：ryot@tohopress.com

月刊「コロンプス」が元気企業を取材します!!

産業栽培誌・月刊『コロンプス』

(東方通信社発行)には、野長瀬裕二教授の連載コーナーのほか、地元の元



気企業を紹介するコーナーもあります。これまで、さいたま市産業創造財団の江田理事長（04年10月号）やNECパーソナルプロダクツの柴田執行役員（06年2月号）など、イブニングサロンの関係者・参加者たちの取材記事を多数掲載してきました。今後、取材を希望される方はご連絡ください。

問合せ TEL：03-3518-8844

★イブニングサロンの主な世話人

江田元之(財)さいたま市産業創造財団・理事長／星野弘志 元埼玉県労働商工部新産業育成課・課長／村重嘉文 (株)イーシティ埼玉・取締役会長／野長瀬裕二(学)山形大学大学院理工学研究科・教授／浜中真人・さいたま商工会議所産業企画部・次長

★主な企画運営委員

山田穎二(財)浜松地域テクノポリス推進機構・事業推進部長／江原秀敏 コラボ産学官・常任理事・事務局長／古川猛 月刊『コロンプス』編集長(東方通信社)／根津紀久雄 NPO法人北関東産官学研究会・理事長／柴田孝・米沢BNO副代表